

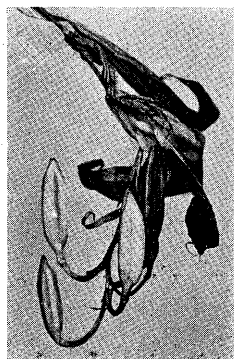
sto: stomata. Fig. 1 (3, 4); Fig. 2, Fig. 4 (2); cross section of pericarp. hy: hypodermis. ors: oil gland-sheath cell. fd: flavedo. or: oil cavity. l: cavity. sec: secretory cell. ad: albedo. Fig. 4 (1); maceration of albedo. v: vessel. wp: wood parenchyma. cf: crystal fiber. cr: single crystal of Ca-oxalate. Fig. 5; infrared absorption spectra of the contents of oil cavity.

(2) Pericarp of *Citrus limon* Burm. f. *Eureka* Almost all the constructions and elements of pericarp are equal to (1), excepts several points. Fig. 1 (5, 6), Fig. 3, Fig. 4 (4); cross section of pericarp. Fig. 4 (3); maceration of albedo.

### ○高等植物分布資料 (15) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (15)

○ハコネラン *Hakoneaste sawadana* F. Maekawa ハコネランは今まで秩父山地、箱根、富士山に産し、また遠く飛んで大和の大台原に知られていた。両者の中間地帯にもあつていいと思われていたが昭和34年3月に愛鷹山で採集中、大岳の西側にある桑崎から入った沢の標高700 mほどの雑木林中のササの下に、各所に群落して開花しているのをみつけた。コイチヨウランに較べると、葉が大きくてうすく、花茎が長く、唇弁の両側に明らかな歯牙があるのでハコネランであることを確認した。花の時期が早いのと、小さくてめだたないのであまり気がつかれないだけで表日本の山地にはまだ各地で発見されるのでないかと思う。(東京都中野区鷺宮 6丁目 664 榎本一郎)

○サガミジヨウロウホトトギス *Tricyrtis macrantha* Maxim. var. *ishiiiana* Kitagawa et T. Koyama 昭和32年秋に丹沢山で発見され、このような美しい植物が東京附近でいまでもみすごされてきたことにおどろいていたが、昭和33年秋、静岡県吉原の



清水義雄氏は富士山の西にある天子岳附近の沢で似たものを発見した。昭和34年10月現地をおとずれて調査したところ多数の株を発見した。もはや果実になつてしたが、これがジヨウロウホトトギスの仲間であり、しかも葉の形や花序の点からサガミジヨウロウホトトギスと一致することを確認した。まだ花をみていないので花形も同じかどうかわからないので目下栽培中である。花は初め下垂して、熟すにしたがつて上向になるらしい。果実はまだ記載されていないので写真をかかげておく。写真の茎は折れ損じているように見えるが自然の状態であり、折れ曲つた所から

サガミジヨウロウホトトギス ×2/3 先が花序になつているのである。標高1000~1200 m ぐらゐの沢ぞいの湿つた岩壁に群生している。面白いことに東北むきの斜面にのみ見られ、西南むきの斜面には全くみられない。これは日当たりと湿りけがこの植物の繁殖に大きく影響していることによると思われる。(榎本一郎)